

アスパラガス 春どり栽培・立茎夏秋どり栽培 管理情報

福光農業協同組合
富山県砺波農林振興センター

○病害虫対策

- ・立茎初期の連続萌芽期の若茎は、茎枯病に感染しやすいため、防除を徹底してください。
- ・春どり収穫打ち切り3～5日後頃を目安に防除を開始してください。
- ・アスパラガスの株元を中心に、茎葉全体にかかるように散布する。

散布時期	対象病害虫	薬剤名	希釈倍率	10a 当たり散布量	使用時期	使用回数	備考
①春どり収穫打ち切り 3～5日後	茎枯病	ベンレート水和剤	2,000 倍	200ℓ	収穫前日まで	4 回以内	
② ①の1週間後	茎枯病・斑点病	Z ボルドー	500 倍	200ℓ	—	—	
③ ②の1週間後	茎枯病・斑点病・褐斑病	ロブラール水和剤	2,000 倍	200ℓ	収穫前日まで	5 回以内	混用可
	ハスモンヨトウ・ネギアザミウマ	プレオフロアブル	1,000 倍		収穫前日まで	2 回以内	
6 月下旬	茎枯病・斑点病・褐斑病	ファンタジスタ顆粒水和剤	3,000 倍	200ℓ	収穫前日まで	3 回以内	
7 月上旬	茎枯病・斑点病・褐斑病	ダコニール 1000	1,000 倍	200ℓ	収穫前日まで	4 回以内	混用可
	アザミウマ類・タバコナジラミ類	アベンジャーフロアブル	2,000 倍		収穫前日まで	2 回以内	

※展着剤のスカッシュ又はクミテン、マイリノーを添加する。

○立茎管理

立茎の方法及び夏どり収穫

- ・春どり打ち切り後、立茎開始から養成茎の確保まで3～6週間かけて、1週間に1本程度ずつ増やし(順次立茎、図1)、作型ごとの立茎数を確保する。立茎させる茎以外は収穫する。
- ・目安 露地春どりのみ：7～8本/株、露地立茎：5～6本/株、ハウス立茎：4～5本/株
- ・立茎させる茎の太さは、規格L、Mサイズ(太さ10～12mm程度)とする。
- ・立茎させる茎は株の一部に偏らないよう、株全体にバランスよく配置する。

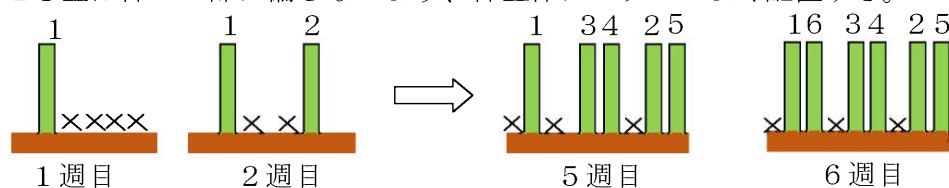


図1 順次立茎(参考:「アスパラ大辞典」農文協)

(問い合わせ先)

J A 福光 営農部 営農指導課 (高田) (電話番号 0763-52-4153)

砺波農林振興センター 園芸振興班 (石川) (電話番号 0763-32-8112)

アスパラガス 春一期どり栽培 管理情報

福光農業協同組合
富山県砺波農林振興センター

○ 病害虫対策

- ・6月は例年降水量が多く、気温も高く、茎枯病やアザミウマ類が発生します。
必ず以下の薬剤を散布してください。

【毎月1のつく日は茎枯病予防散布 Day 1日、11日、21日】

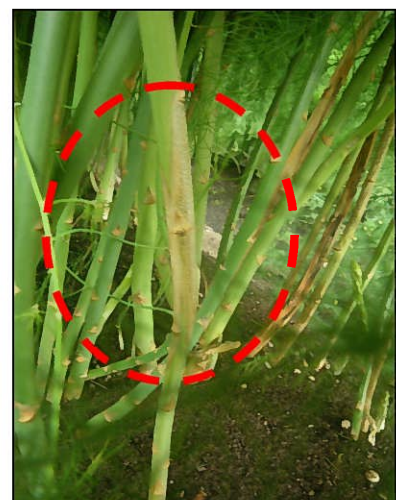
月	旬	対象 病害虫	薬剤名	希釈倍率	10a 当たり 散布量	使用時期	使用 回数	備考
6	上	茎枯病	ベンレート 水和剤	2,000 倍	100ℓ	収穫前日 まで	4 回 以内	
	中	茎枯病・斑点病 ・褐斑病	ロブラール 水和剤	2,000 倍	100ℓ	収穫前日 まで	5 回 以内	混用可
		ハスモンヨトウ ・ネギアザミウマ	プレオ フロアブル	1,000 倍		収穫前日 まで	2 回 以内	
	下	茎枯病・斑点病 ・褐斑病	ファンタジスタ 顆粒水和剤	3,000 倍	100ℓ	収穫前日 まで	3 回 以内	
7	上	茎枯病・斑点病 ・褐斑病	ダコニール 1000	1,000 倍	100ℓ	収穫前日 まで	4 回 以内	混用可
		タバココナジラミ類 ・アザミウマ類	アベンジャー フロアブル	2,000 倍		収穫前日 まで	2 回 以内	

※展着剤のスカッシュ又はクミテン、マイリノーを添加する。

茎枯病の特徴

- ・茎に円柱形で両端の尖った形の病斑が表れ、やがて全体が赤く枯れる
- ・病原菌はカビの仲間なので
雨の多い梅雨や秋雨の時期に発生
(右写真参照)

※茎枯病が発生している茎は、伝染源となるので、防除前に抜き取り、ほ場外に持ち出して処分する。



(問い合わせ先)

J A 福光 営農部 営農指導課 (高田) (電話番号 0763-52-4153)

砺波農林振興センター 園芸振興班 (石川) (電話番号 0763-32-8112)